

施策項目 1 - 2 これからの時代に求められる資質・能力の育成（高校）

[評価結果]

【担当課: 高校教育課】



担当課HP

| | |
|-------------|-------------|
| 総合評価 | 進展あり |
|-------------|-------------|

| | |
|-----------|---|
| 定量評価 [指標] | C |
|-----------|---|

| | | | | | |
|----|------------|-----|-----|-----|-----|
| 指標 | 評点 | (a) | (b) | (c) | (d) |
| | 評価数 | 0 | 0 | 1 | 2 |
| | d 評価となった指標 | ① ② | | | |

| | |
|--|-------------|
| 定性評価 [施策] | 進展あり |
| <p>北海道高等学校「未来を切り拓く資質・能力を育む高校教育推進事業」における「総合的な探究の時間推進プロジェクト」指定校や「学びの重点化推進プロジェクト」指定校などの研究指定校18校の成果発表交流会をオンラインで開催するとともに、発表動画をオンデマンドで公開するなど、成果の普及に取り組んだほか、授業改善セミナーにおいて大学と連携しながら学習指導案の作成や研究授業に取り組むなど、内容の改善・充実が進んだ。また、探究活動キャンプにおいて、生徒が探究活動に取り組む時間を十分確保するとともに、大学等と連携して参加生徒が助言を得る機会を設け、生徒の探究活動に深化がみられるなど、施策の進展が認められる。</p> | |

[施策の推進状況]

【P】・・・「Plan 令和3年度の主な施策」 【D】・・・「Do 主な取組の状況」
 【C】・・・「Check 施策の課題」 【A】・・・「Action 今後の方向」

| | |
|---------|---|
| 《課題・背景》 | <p>(1) 社会との連携・協働による教育課程の実現 ・大きな社会変動の中、社会で求められる資質・能力を全ての生徒に育み、生涯にわたって探究を深める未来の創り手を育成するための教科等横断的な教育課程の編成・実施が必要</p> <p>(2) 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善の推進 ・学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続ける人材を育成することが必要</p> <p>(3) 高大接続改革への対応 ・高大接続改革で重視する学力の3要素を踏まえ、「基礎的な知識および技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」、「多様性・協働性の重視」を意識した授業改善を図るための教員の資質・能力の向上</p> |
|---------|---|

| | |
|--|---|
| (1) 社会との連携・協働による教育課程の実現 | |
| <p>①学校教育指導訪問の実施 ②教科指導訪問の実施 ③北海道高等学校各教科等教育課程研究協議会の実施 ④北海道高等学校教育課程研究協議会の実施 ⑤『高等学校教育課程編成・実施の手引』の作成 ⑥北海道高等学校「未来を切り拓く資質・能力を育む高校教育推進事業」の実施（R元～R3）</p> | <p>①学校教育指導訪問の実施（5月～7月） ②教科指導訪問の実施（9月～12月） ③北海道高等学校各教科等教育課程研究協議会の実施（11月1日～18日）17教科等、2,451名参加 ④北海道高等学校教育課程研究協議会の実施（12月10日） ・全道4会場に参集しての研究協議及び各会場をオンラインで結び講演を実施 ・道央89名、道南60名、道北66名、道東67名、合計282名参加 ⑤『高等学校教育課程編成・実施の手引』の作成（7～10月）道教委Webページに掲載し上記②・③・④で活用 ⑥・「カリキュラム・マネジメント推進プロジェクト」 ○上記④と連動した教員研修 ○空知・石狩・渡島・檜山で開催 ※R元～R3にかけて全管内で実施 ・「学びの重点化」推進プロジェクトの実施（全道4校で実施）</p> |
| <p>①・②・③・④・⑤ 学校教育指導等において、観点別学習状況の評価の実施状況を把握するとともに、優良事例を収集し、全道の高等学校へ普及 ⑥研究指定事業の成果の活用・普及を図るとともに、各教科での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な教育であるSTEAM教育を推進</p> | <p>①・②・③・④・⑤ 各学校で育成を目指す資質・能力が育まれているかを確実に検証するため、観点別学習状況の評価のより一層の充実を図ることが必要 ⑥各学校で育成を目指す資質・能力を確実に育むため、ICTを効果的に活用した授業や探究的な学びをより一層推進することが必要</p> |

| | |
|--|---|
| (2) 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善の推進 | |
| <p>①北海道高等学校「未来を切り拓く資質・能力を育む高校教育推進事業」の実施（R元～R3） ②学校教育指導訪問の実施</p> | <p>①・授業改善セミナー「教科指導講座」の実施 ・24会場で実施、629名参加（内、5会場で大学等と連携） ・「学びの重点化」推進プロジェクトの実施（全道4校で実施） ・研究指定事業指定校による成果発表交流会の実施（11月22日）130校、218名参加 ②校内研修の実施（全ての公立高等学校に研修資料を送付）</p> |
| <p>①・② 教科における探究的な学びをテーマに、授業研究を中心とした授業改善セミナーの実施</p> | <p>①・② 教科指導講座参加者の3か月後アンケート（回答226人）によると、92%がセミナー参加後に授業改善に取り組んでおり、そのうちの97%がセミナーの内容が授業の改善に役立ったと答えるなど、成果が見られたが、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善をより一層進めるためには、各教科の授業に探究的な学びの要素を取り入れることが必要</p> |

| (3) 高大接続改革への対応 | |
|---|--|
| <p>① 北海道高等学校「未来を切り拓く資質・能力を育む高校教育推進事業」の実施（R元～R3）</p> | <p>① 【教員対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善セミナー「進学指導講座」（9月～12月）6会場実施、139名参加 ・「アドバンスト学習キャンプ講師育成講座」（9月9日）道立高校教諭12名参加 ・「学力テスト開発会議」（4月～1月）現行学習指導要領における高2向け学力テストを作成 新学習指導要領に対応した高1向け学力テストを作成 <p>【生徒対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「探究活動キャンプ」（8月、1月、3月）69名参加 中間発表会を開催し、高校生が大学院生と議論する機会を設定 ・「アドバンスト学習キャンプ」（1月5～6日）116名参加 |
| <p>① 高校生が取り組んだ探究活動の成果を発表・交流する機会の創設</p> | <p>① ・作成した学力テストを「学びの基礎診断」とする学校で活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究活動キャンプにおいて活動期間を十分確保して実施したことにより、参加者の90%以上が情報活用能力、課題解決能力が向上 ・「基礎的な知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」をバランスよく育成するため、教科等横断的な探究活動をより一層推進することが必要 |

[指標の状況及び評価]

| 指標の内容 | 基準値 | 目標値（上段） | | | | | | 進捗率 | 評価 | 出典 (調査名等) | 実施主体 | 調査期 日又は 調査対 象期間 | 指標の 対象 |
|--|---------------|------------|------------|------------|------|------|-------|-----|------------------------|--|---------------|--------------------------|-----------|
| | | 実績値（下段） | | | | | | | | | | | |
| | | (H29) | (H30) | (R元) | (R2) | (R3) | (R4) | | | | | | |
| ① 「家庭学習を一度もしない週があったか」という質問に対して、「あった」と回答した高校1年生の割合(%) | (H28) 63.4 | 55.0 | 45.0 | 30.0 | 15.0 | 0 | 46.5% | d | 北海道高等学校学習状況等調査 | 道教委 | R4.2～ R4.3 | 公立高等学校第1学年 | |
| ② 「今年度受けた授業では、先生から示される課題や、クラスやグループの中で自分たちで立てた課題に対して、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う」という設問について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した高校1年生の割合(%) | (H29) 68.7 | 85.0 | 90.0 | 94.0 | 98.0 | 100 | 79.3% | d | 北海道高等学校学習状況等調査 | 道教委 | R4.2～ R4.3 | 公立高等学校第1学年 | |
| ③ 北海道高等学校学力向上実践事業における学力テストにおいて、前年度の結果に基づき学校が最も課題と考えている領域等(自校の正答率が全道正答率より10ポイント以上低いなど)の正答率が上昇した学校の割合(%) | (H29) 64.8 | 70.0 | 75.0 | 80.0 | 90.0 | 100 | 83.7% | C | 北海道教育推進計画の目標指標設定にかかる調査 | 道教委 | R4.6～ R4.7 | 道立高等学校 | |
| 評価結果 | (a) 指標数 | (b) 指標数 | (c) 指標数 | (d) 指標数 | 定量評価 | | | C | d評価に対する今後の取組 | ①② 全道代表高等学校長研究協議会において調査結果を示し、各学校における取組の一層の充実について指導・助言 | | | |
| | 0 | 0 | 1 | 2 | | | | | | | | | |